

放課後の子どもの居場所でのタッチパネル型アンケート 実施トラブルと携帯型アンケートアプリケーションの開発

川嶋健太郎¹・蓮見元子²・北原靖子²

(¹尚絅大学短期大学部・²川村学園女子大学)

問題・目的

地域の子育て機能が低下している現状では、放課後の居場所において児童が安全・安心に過ごすことができ、健全に育成されているか否かは重要である。学校等の施設で実施されている放課後子ども教室など、様々な放課後の居場所作りの試みがなされているが、児童にとって放課後の居場所が楽しく安心できる場所であることを確認する必要がある。しかし、放課後の居場所に訪れる児童は低年齢である場合が多く、通常の質問紙アンケートを行うことは困難である。このため川嶋・北原・蓮見・浅井(2009)では放課後子ども教室にてタッチパネルパソコンとICカードを用いたアンケートシステムを作成した。そこで本研究ではこのアンケートシステムを実施した際のトラブルを検討し、児童の放課後を日常的に点検するために必要なアンケートシステムを考察する。

方法

調査協力者 小学生児童 122 人(男 55 人, 女 67 人)が参加した (1 年生 45 人, 2 年生 11 人, 3 年生 23 人, 4 年生 16 人, 5 年生 14 人, 6 年生 13 人)。

装置 HP 製タブレットノート PC, スピーカー, マーステクノサイエンス社製 IC カードリーダー, IC カード(ISO15693)で構成されたアンケートシステムを 2 台用いた。

手続き 千葉県にある小学校に設置されている放課後子ども教室にて夏休み前後の 14 日間, 児童個人の入室時と退室時の 2 回調査を行った。児童は受付において順番を待ち, 個人別の IC カードを受け取った。その後児童はタッチパネルの前に座り, IC カード読み取りを行った。児童がスタートボタンを押すと教示文と音声で提示された。各質問では画面に質問文とこれを読み上げる音声で提示された。入室時の質問項目は「どこで いちばん あそびたい?」「おうちのひとに いわれて きたの?」「きょうは どのくらい たのしみ?」であった。退室時の質問項目は「きょうは どのくらい たのしかった?」「なにか こまったことは あったかな?」「いっぱいあそんだ ばしょは どこ?」であった。児童が画面上のボタンを押すと次の質問に移った。ただし質問文提示後 2s 間はボタンを押しても次の質問には移らなかった。画面の「もどる」ボタンを押すと一つ前の質問に戻ることが出来た。すべての質問項目への回答がされると, お礼の文と音声を呈示する画面が表示された。

結果と考察

図 1 には夏休み明けの 7 日間に報告された機器トラブルと子どもの行動によるトラブルの生起数を示している。機器トラブルは IC カードの読み取りが失敗し, 入室・退室の一方でアンケートが出来ない, 何度も同じ児童がアンケート可能になるなどのトラブルがほとんどであった。子どもの行動によるトラブルでは入室時にはやっても退室時にはアンケートをやらないで帰ること, 同時に複数ボタンをタッチして回答する, が多かった。

放課後の居場所に据え置きタッチパネルアンケート装置を設置した今回の方法では, 回答時の安全確保・アンケート実施・トラブル対応のために 2 名の実施者が必要であり, 効率的ではなかった。このため低学年児童にも浸透しているタッチパネル携帯端末を用いて, ①家庭において各児童が個別に放課後の生活状況を毎日回答できる, ②低学年児童にも回答しやすい音声ガイドなどを備えたインターフェイス, ③回答結果をネットワークを介して収集できる, といった特徴を持った携帯型アンケートアプリケーションを提案する。

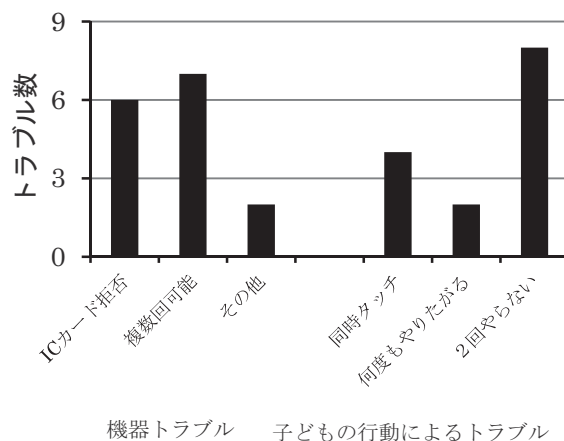


図 1 タッチパネル型アンケート実施トラブル生起回数